

## 【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

### (14) これからの生活②

過去を振り返ることは、自分の歩んだ道を考えることになります。そのことを真剣に考えて見ると、いろんなことが思い出され、その時の思いが何かを考えさせてくれるものです。

そんな中で一番問題になるのが、これからの人生に前が見えないとか、今生きていることが辛いとしか感じないことがあると思います。誰かが生きる説明をしてくれても、どの本読んで、現実の厳しさが強いと感じれば、その時点で生きることの意義を感じなくなることがあると思います。そんな状態が続けば、その先に見えるものは死とか家出または現実からの逃避ということになるものと思います。

本当に生きることの大切さをその人なりに理解できたとしても、現実の辛さは人によって感じ方が異なりますし、今・明日の生活が生きている意義を感じることができるものなのかどうか明確になることはないと思います。

一番は金銭的な問題であり、これを克服できるかといえればかなり厳しい難題でしょう。金の価値観は人によって異なることは事実ですが、生活に必要な金額そのものもはっきりしないのが現実です。毎日必要なお金、定期的に必要なお金、突発的に必要になるお金、災害により必要になってくるお金、健康保持のために必要なお金、病気に対するお金など、考えれば考えるほど嫌になってくるもので、これが現実です。そのための収入、貯蓄等が存在するのであればある程度目途がたち、大きな心配が取り除かれます。いろんな考え方がありますがそれなりに目途がたてば幸せな人生です。そんなに目途のたつ人は多くはないと思いますし、心配の種が多くあると感じている人が今の世の中多いものと感じます。

将来設計について、本当に真剣に考えるようになるのは、55歳を過ぎた頃からだと思いますし、それまでは子どものこと、家屋敷のことで精一杯なのが現実です。生きることの辛さは長いスパンで続いていますし、将来は何とかなると思えば生活が続けるしかなかったように思います。

国も地域もそんな感じで毎日を過ごすように仕向けていたのだと思いますし、そんな雰囲気を感じるのが当たり世の中で、将来は何とか生きていけるという錯覚に方向付けされていたような気がします。また、何が問題なのかを明確にすることが不必要な現実であり、気が付いた時には置かれた現実悩み、その悩みを増やしてしまうことも現実です。